

# 科目区分：外国語科目（ドイツ語）

授業科目名	ドイツ語					学期	曜日	校時
英語名	German					前期 後期	木曜日 木曜日	3校時 3校時
担当 教員名	目正勝	単位数	1単位	必修 選択	必修			
授業のねらい・内容・方法								
<p>初級文法の基礎の上に、主として物語のドイツ語文章を読む力を身につける。          年間を通して5篇の推理短編小説（前期2篇、後期3篇）を読む。比較的平易なドイツ語で書かれたものから始めて、本格的なものへと進む          推理小説なので論理的思考や注意深い観察が求められる。一方、物語の背景も多彩である。さまざまな世界、社会が舞台となっていて、未知のものに触れる楽しさがある。          テキストには文法表と詳しい注がついているので、文法事項の再確認やより深い理解を図ることができる。          文法をさらによく理解するために、折に触れて独作文を含む練習問題を設ける。（プリントを使用）          教室では和訳を発表してもらい、それを検討することが中心になる。          テープを聞いて文章の朗読の練習もする。</p>								
テキスト、教材等								
<p>テキストは2冊使用する。          『やさしいミステリー小品 文法表つき』 国信浩洋、安藤 勉 編 朝日出版社          『短編ミステリー集 殺し屋の名誉』 福本義憲 編 第三書房</p>								
対象学生	成績評価の方法					教員研究室		
2E5～7	定期試験（約90%）、および平素の学習成績、授業への参加状況等（約10%）を考慮して評価する。							
授業計画								
<p>大体1回に1ページ半ぐらいずつ進む。前もって4～5人の人に和訳を割り当てておくので、その人はよく調べて来なければならない。          文法に関しては、練習問題のプリントを使う。数回に分けて配布する。それらの内から、できるだけ毎回少しずつ取り上げる。</p> <p>前期          第一回～第十四回 「国境の突発事件」「高原牧場への逃亡」          格変化の練習、重要動詞の3基本形など</p> <p>後期          第一回～第十四回 「殺し屋の名誉」「中継地」「殺人者は蠟燭を消す」          副文、接続法、冠飾句など</p>								